



# お江戸舟遊び瓦版 427号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティー・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

## SD(ソーシャルデザイン)推進会議 第1研鑽会

今いる人材(職員、住民)で無理なくできる地方創生

日時: 2016年5月11日

所: 3×3lab Future(大手町タワー)

事務局: NPO 地域交流センター

1) 開会挨拶 橋本正法(事務局長)

2) 趣旨説明 木下博信

- 行政主導でないまちづくりワールドを目指す探求の旅へ皆で進みましょう! 右往左往しながら 一步一步前へ前へ!!

3) 話題提供 若新雄純(株New Youth 代表取締役、慶応大学講師)

「まちづくりにおける“グラデーション”を考える」

- 「答え」のない時代が始まった。面白いが難しい社会情勢だ。移民を受け入れるべきか、憲法を変えるべきか等、難問山積。その答えは、グラデーションでもある。
- NEET 株式会社をつくった。コンセプトはプライドの高いニートがニートでいられる組織づくり「皆が取締役」。
- 鯖江市役所 JK 課を立ち上げた。牧野百男市長は、市民協働とともに、JK 達(女子高生)に大人を変えてもらいたいと言う。鯖江市は、駅前が立派な福井市に比較し、寂しい駅前である。しかし、対照的な福井市の大きなビルは閑古鳥が鳴いている。JK 課は年間計画もなく、期待される成果は「新しい何か」! 給料も交通費もなく、80 回の会議で前向き案が生まれている。今までの官僚主導の都市計画から多様な市民感覚のまちづくり、誰もリーダーでない平らな組織。これからはプロ専門家の役割が変わってくる。教育する時代ではない。行政は裏方に徹して!
- ゆるい移住にも取り組み、面白いことになっている。

4) ディスカッション・振り返り

- 協働に数年取組んでいる。「?」が多いが、今日は楽しい。
- 若者を巻き込むやり方に大変興味を感じる!!
- JK 課が女子高生を惹きつけるのは何なのか?
- 楽しいがキーワード / 発想の転換が必要。  
@「ゆるいまちづくり」がこれからのポイントである。
- JK をどう集め、上手くリードしてきたのか?  
@会議の前後が本音の意見を収集できる貴重な時間!!  
@メディアを上手く使い、JK 集めや成果発表などに成功!  
@垣根のない場づくりが不可欠。信頼が増してくる。

所感: 激動する時代、答えのない時代になったと語る若新氏。既存の仕組みにしがみつく大人や専門家の時代ではないという。市民で新しい感覚の SD を生み出さなければならないようだ。



島嶼コミュニティ学会 第8回島カフェ

外国につながる人びとのコミュニティ  
—「生きるための工夫」が示唆するもの—

日 時： 2016年5月14日（土）

所： 東洋大学白山キャンパス 6号館

講師：武田里子（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター）



1. 外国につながる人びと

- ・ 在留外国人数： 107万人（90年） ⇔ 212万人（14年）  
中国（65万人）、韓国・朝鮮（50万人）、フィリピン（22万人） ブラジル（18万人） ベトナム（10万人）  
2011年以降、ベトナムが急増、居住地：5都府県（東京、大阪、愛知、神奈川、埼玉）に53.6%  
帰化者：年間1~1.5万人 国際結婚：3~4万組、子供は重国籍

2. 居住地によるコミュニティ比較——都市部と地方農村、さらに地方・農村の違い

- ・ 横浜市鶴見区（都市部）  
鶴見国際交流ラウンジ、多様なエスニック・コミュニティ（ふれあい館、カラカサン）  
複数の市民組織、大学等による支援活動（学習支援、相談業務など）がある。
- ・ 新潟県南魚沼市と長野県飯田市（地方：農村）

	南魚沼市（人口約6万人）	飯田市（約10万人）
行政施策	06年日本語教室	05年男女共同参画 07年多文化共生社会推進
在留外国人	760人（留学生39%、永住者17%） 中国、フィリピン、韓国・朝鮮	2030人（永住者46%） 中国、ブラジル、フィリピン
転機	83年 国際姉妹都市交流 02年 魚沼国際交流協会 06年 日本語交流広場	80年代 日中友好協会 95年 平和フォーラム 05年 宅老所ニイハオ開設
特徴	明示的エスニック・コミュニティがない 留学生交流は新潟県有数の先進地域	明示的エスニック・コミュニティあり 中国帰国者、

多文化共生施策＝エスニック・コミュニティのリーダー養成が最も大きな成果

3. 飯田市のエスニック・コミュニティ

「顔の見えない定住化」＝外国人労働者が、地域社会生活を欠き、地域から認知されない。ブラジル、フィリピン、中国帰国者が、地域とのコミュニケーションが図れないと、地域からの認知は限られ、厳しい生活となっている。

4. 国際結婚移住研究から——圧縮近代を生きる者同士として

- ・ 国際結婚は日本では80年代から、韓国では93年の中国との国交回復以降、朝鮮族の女性が結婚移住者として来韓し始めたのをきっかけに急増。
- ・ 東アジアへの移住者が目立って増えているのがベトナム。
- ・ 韓国への日本人結婚移住者は1988年以降、統一教会による仲介では約7000人と言われる。
- ・ 1985年の国籍法改正により日本は父母両系血統主義に代わり、子供たちも日本国籍を取得できるようになった。この運動に取り組む「国際結婚を考える会」の配偶者の9割は欧米系。

5. まとめ

国際結婚に活路を求めようとする飯田などのホスト社会の人々と、より良い暮らしや幸せを求めて越境する結婚移住者は共に「生きるための工夫」として国際結婚を選択している。結婚移住研究は制度的矛盾を鮮明にし、同じ課題を抱える人々をつなぐ可能性が求められる。特に第二世代の成長を如何に支えるかも重要で、東アジアに限れば、日本の役割は重用である。

**所感:** とても微妙な難しいテーマの講演を聞くこととなった。ヨーロッパでは難民問題が急浮上後、急に情報が沈静化し、ままたらなくなっている。一時盛んになった国際結婚も多様な問題を抱えている。きめ細かな研究が進み、矛盾解決が進展することを祈念したい。（文責 中瀬）